

クラス番号	625	担当教員名	斉藤 雅茂
テーマ	高齢者の保健・医療・福祉ニーズと社会福祉調査		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣住民による独居高齢者への見守り活動のプロセスと未充足ニーズの評価；見守り活動は支援すべき人々をカバーできているのか. 社会福祉研究, 129: 85-92. (2017) ● 高齢者の社会的孤立予防・軽減にむけた地域診断の意義と可能性. Aging & Health, 82 : 18-21. (2017) ● Development of an Instrument for Community-Level Health Related Social Capital among Japanese Older People: The JAGES project. <i>Journal of Epidemiology</i>. 27(5): 221-227. (2017) ● 高齢者のセルフ・ネグレクト事例の類型化と孤立死との関連；地域包括支援センターへの全国調査の二次分析. 厚生指標, 63(3) : 1-7. (2016) ● 地域福祉実践の「見える化」にむけたデータ活用の課題. 地域福祉実践研究. 7 : 10-14. (2016) 		

ゼミナール概要

キーワード：社会的孤立・孤立死，介護予防，認知症，貧困，健康格差，幸福な老い，セルフ・ネグレクトなど
 専門領域）社会福祉学，社会老年学，公衆衛生学，社会疫学，高齢者福祉，地域福祉，社会福祉調査

目的、内容、方法等：

この演習では、主に高齢期の諸問題に焦点をあて、個別援助の方法論だけでなく既存の調査研究の動向を共有しながら、皆さんの関心を深めていきます。卒業論文のテーマは、キーワードに記載したものを含め、高齢者の保健・医療・福祉ニーズに関するものであれば何でも構いません（皆さん自身の「問い」や「強み」を大切にしたいと思っています）。データ解析に挑戦したいという方には個別にサポートします。最終的に全員が「学士号」として恥ずかしくない水準の卒業論文になるよう指導します。研究の進め方に関するテキスト、関連文献や資料の輪読を重ねて、各自の関心テーマ（問い）の焦点化を図ります。また、前期には卒業論文に関連したレポートを提出してもらい、添削および反省会を行います。例年、春休みには卒業研究の中間報告会を行っています。フィールド・ワークについてはメンバーの希望を踏まえて検討します。また、メンバーの希望があれば、卒業生や大学院生へのゲスト依頼なども調整したいと考えています。

授業計画：

- － 3年前期には、テキストに基づいて学術研究とは何なのか、どのように進めたらよいのかを改めて確認していきます。その後、各自の関心に即した論文を集めて輪読をし、論文の読み方を習得します（各自、先行研究のレビューノートを作成します）。それらを踏まえて、レポートおよび卒業研究計画書にまとめます。
- － 3年後期には、卒業論文で取り組む課題（問い）を焦点化し、個別指導とグループワークを通じて、卒業論文の執筆構想を整理していきます。なお、この時期は実習とも重なるため、参加メンバーの希望に合わせて適宜演習内容を調整します（PCのスキルアップ演習やデータ解析の入門など）。
- － 4年次は主に執筆中の卒業論文をピアレビューし、お互いに課題を確認していきます。就職活動や公務員試験など他の予定をあらかじめ予測して、計画的に卒論を終えるように指導しています。たとえば、国家試験を控えている人には夏休みまでに卒業論文の完成を目指しています（あとは個々の努力次第です）。

担当教員からのメッセージ



ゼミは何かを与えてもらえる場ではないと思っています。卒業研究を通じて、自ら探求して何かを発見し、発信することの「楽しさ」を味わってもらえたら嬉しいです。多少不器用でも努力することをいとわない方や誠実な方は大歓迎です。他方で、他人がやってくれるのを待ちたい人や「いかにラクして単位を取得するか」が最優先課題の人はお勧めしません。4年間の集大成として、与えられた課題をこなすだけでなく、皆さん自身の「強み」を活かして様々なことにチャレンジし、一緒に実りの多いゼミにしていきたいと思います。